

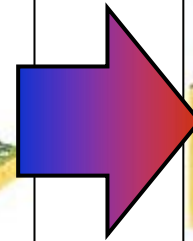
1-5 総合的な治水対策

都市化前後の流出

開発前は雨水は地中に浸透し、河川には表流水が流入したが、開発によってコンクリートなどに覆われた不透水域が増大し、短時間に多量の洪水が河川に流入するようになった。



開発前



開発後

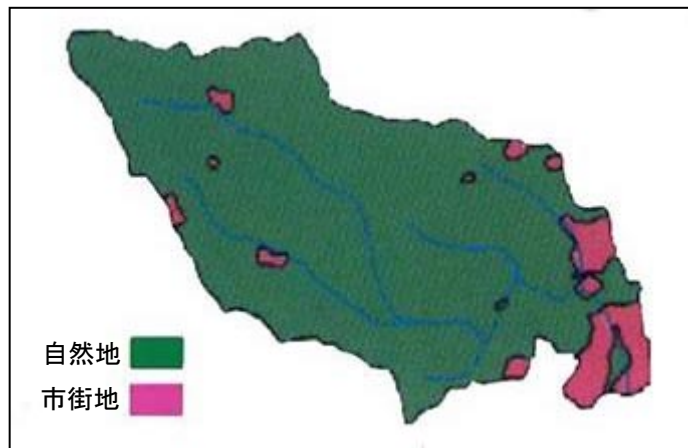
鶴見川(昭和41年)

■鶴見川位置図 出典:日本地図帳



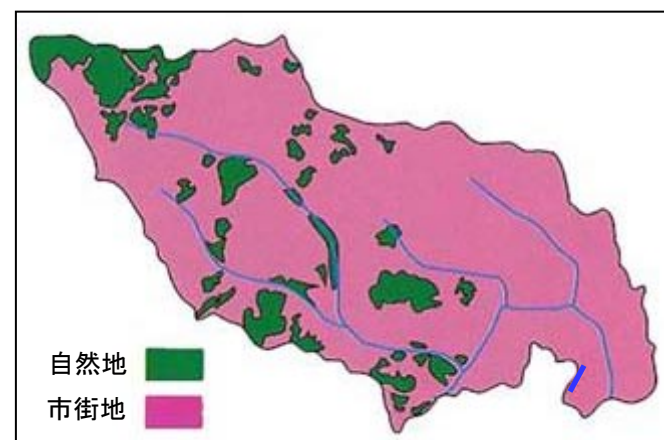
昭和41年6月災害 出典:入門 建設技術行政9

1958年(昭和33年)



市街化率 10%

1997年(平成9年)



市街化率 84.3%

鶴見川(平成元年)

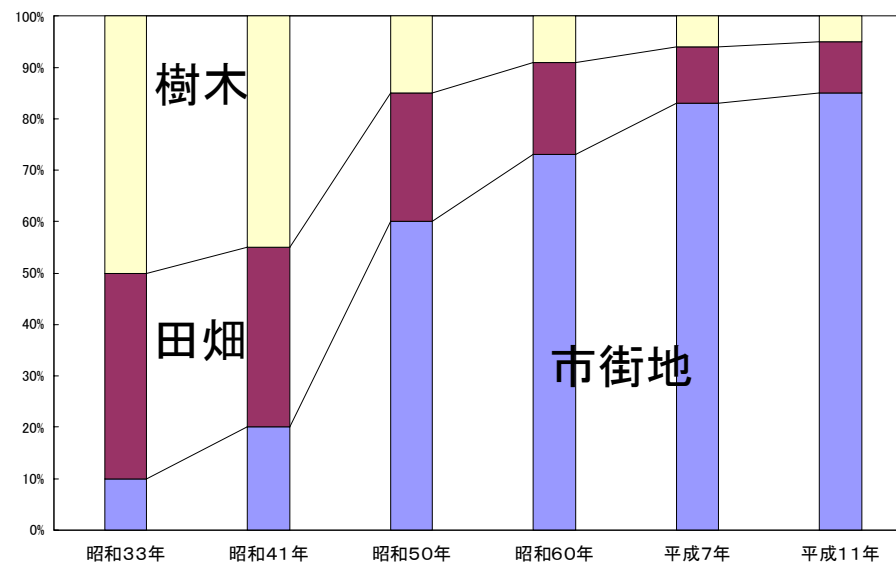


平成元年の状況

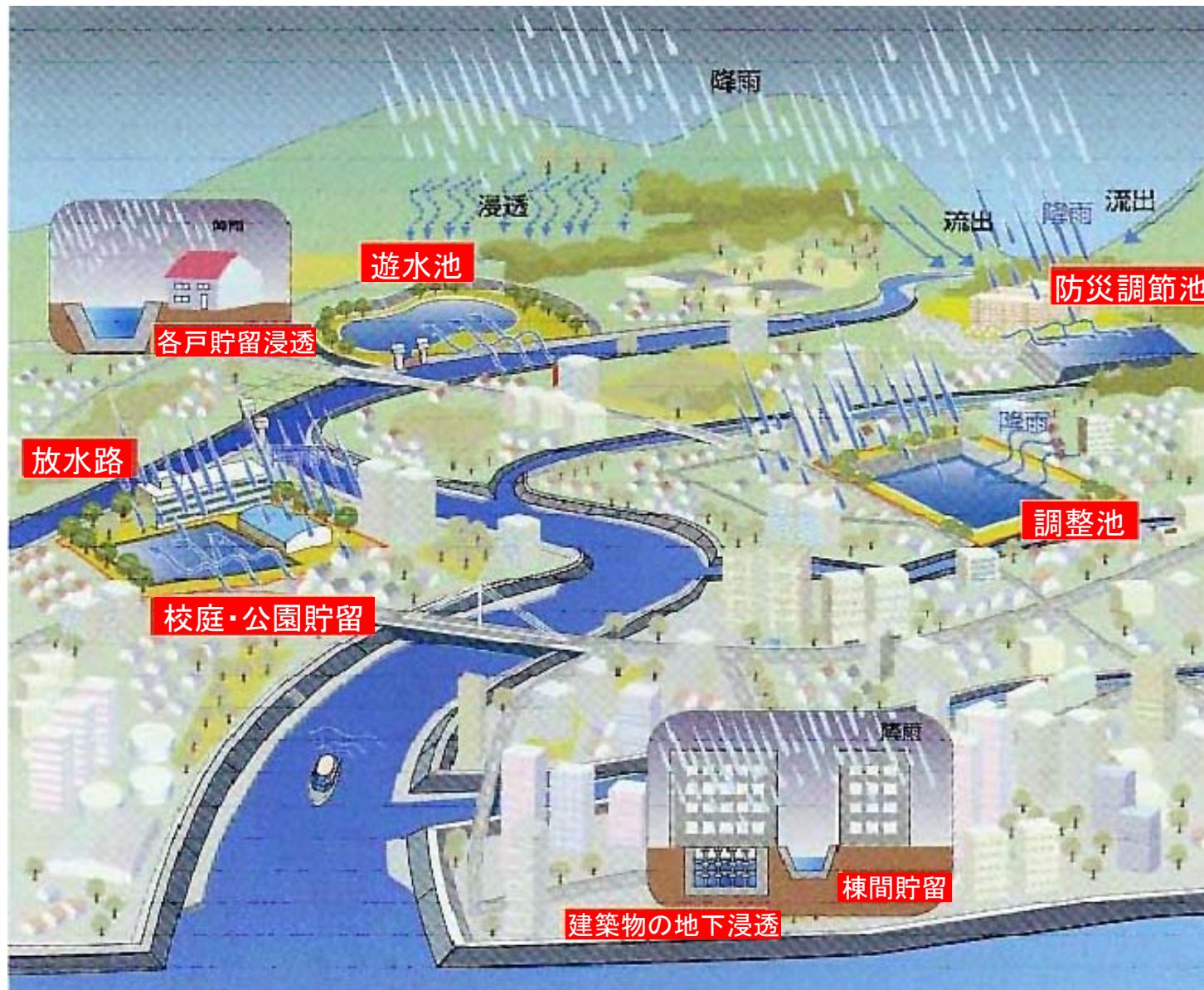
出典: 入門 建設技術行政9

鶴見川流域の 土地利用の変化

出典: 京浜工事事務所



総合治水概念図



大和川流域対策の事例 (大和川)

大和川流域総合治水対策協議会の流域整備計画

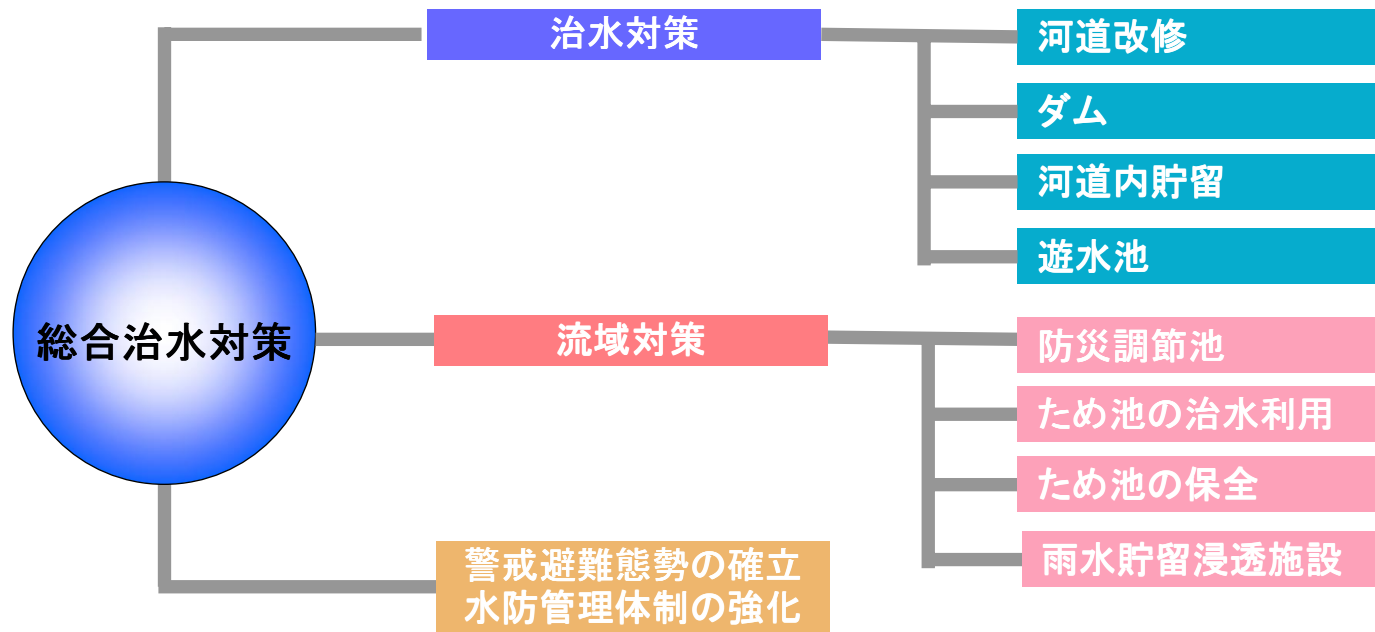
流域整備対策

治水対策

流域対策

長期的な治水計画は、大和川水系工事実施基本計画に基づいて整備を進めていきますが、当面の目標として、大和川では昭和57年8月降雨を対象とし、支川は約10年に1回程度の降雨を対象として改修するとともに、ダム等の建設を促進していきます。

- ①現在有している保水機能を積極的に保全していきます。
 - ②適正な土地利用を図っていきます。
- 以上の他、積極的に治水容量を確保していきます。



大和川流域対策の事例 (大和川)



防災調整池(旭ヶ丘調整池・香芝市)
宅地造成等の市街地開発では流失量が増大するため、防災調整池によって一時貯留し、流失を抑制します。



ため池の保全(馬見丘陵公園池・広陵町)
ため池は雨水を貯留し、洪水を抑制する効果があります。そのため、ため池を公園施設やゴルフ場、釣り堀等、多目的に利用して保全に務めています。



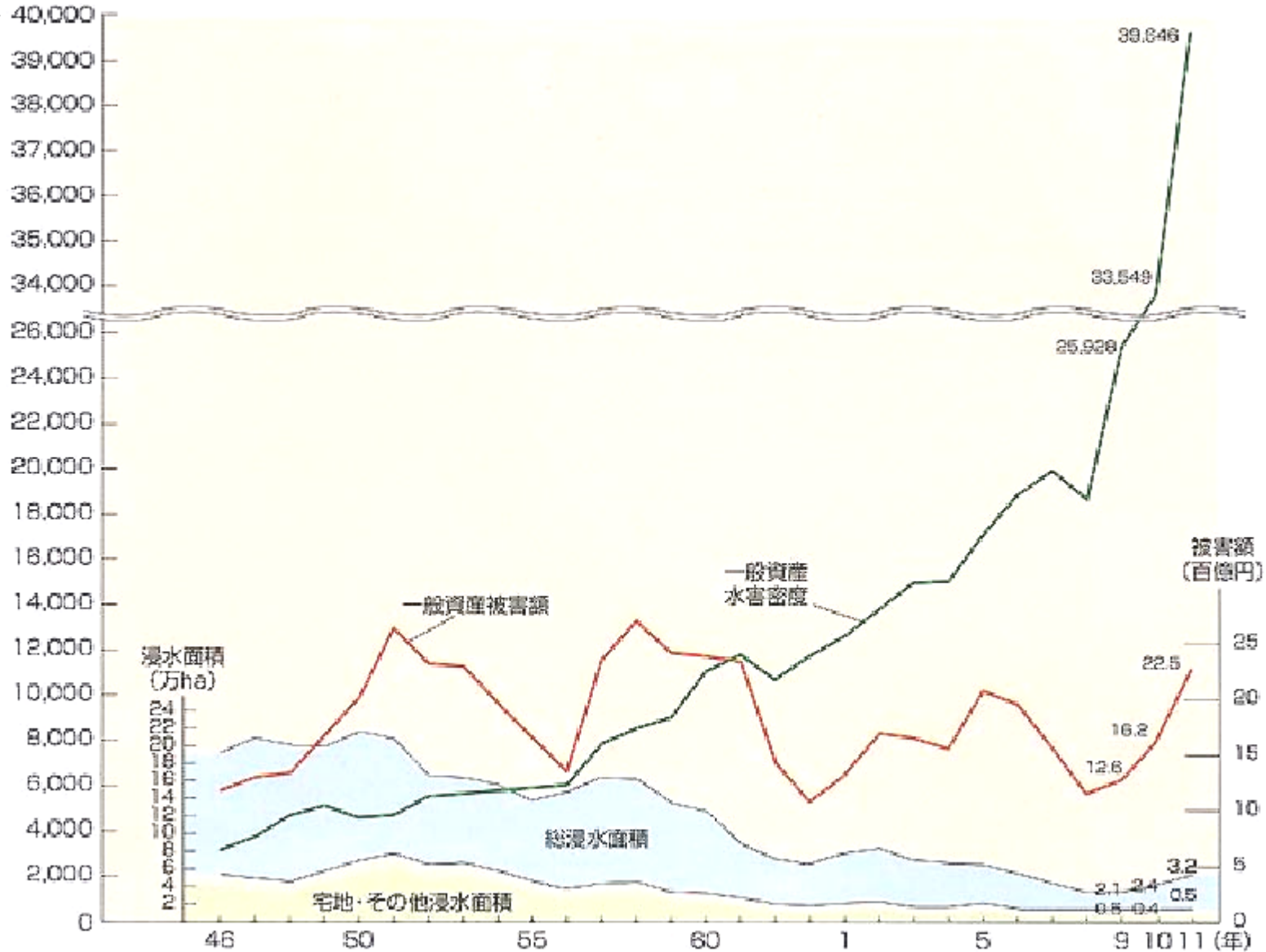
雨水貯留浸透施設(天理市立丹波市小学校)
敷地内に降った雨は学校のグラウンドや駐車場を利用して、一時的に貯留します。



校庭貯留 水がたまった様子(広陵町立真美ヶ丘中学校)

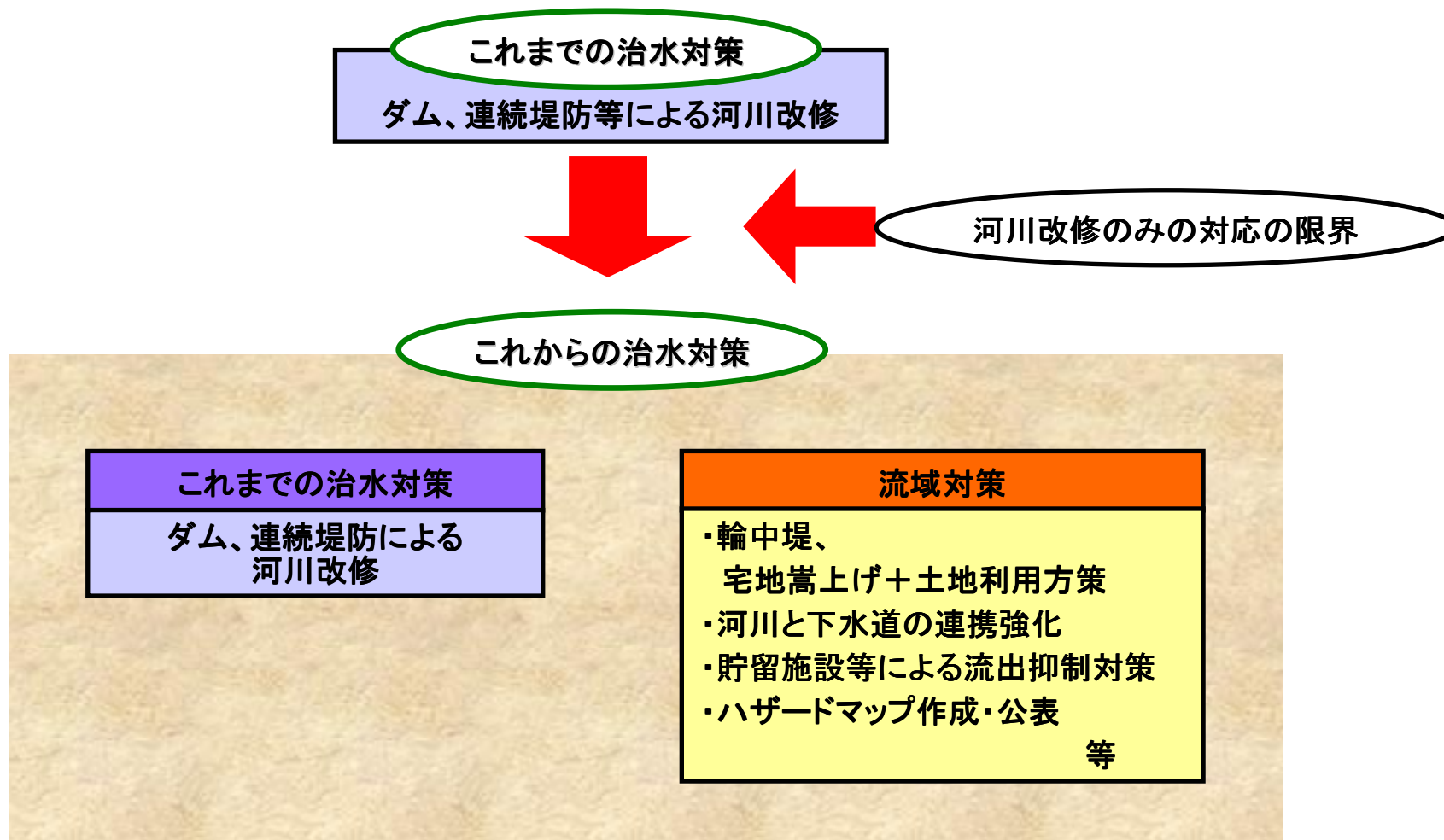
水害被害額及び一般資産水害密度等の推移(過去5年平均)

水害密度
1ha当たり被害額
平成7年価格
(千円)



注) 一般資産水害被害額及び水害密度は、営業停止損失を含む。国土交通省「水害統計」による

審議会中間答申



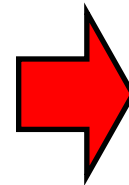
氾濫域対策

●水防災対策特定河川事業

■イメージ



家屋の移転が必要となるなど完成までには多大な費用と期間が必要



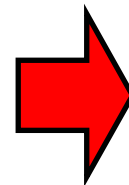
輪中堤や宅地嵩上げを効率的に短期間で実施することにより、家屋の浸水被害を解消

●耐水型地域整備事業、都市水防災対策事業

■イメージ



氾濫が市街地に及び被害が増大



横堤の築堤、道路の嵩上げにより、市街地への氾濫を防御